

今日の説教のポイント<使徒言行録13章16~41節>

①なぜイスラエル人なのでしょう？

キリスト教信仰について持つ疑問の一つに、「なぜ神様はイスラエル人を選ばれたのか」があります。日本人ではだめなのでしょう。この問いかけは大事です。この答えの如何によって、その宗教が本物かどうか見えて来る面があるからです。「なぜイスラエル人なのか」と問うということは、言い換えると、聖書が「イスラエル人にだけ都合のいいことを言っているか」「他の民族をどう考えているのか」を問うということです。その答えの如何は？

②イスラエル人は私たちと関係ないのではなく、むしろ私たち自身！

聖書を正しく読むコツの一つは、出て来る人間やその集団を全て私たち自身の姿を表わしていると思って読むことです。アダムはアダムだけの問題を考えているのではなく、私たち自身の中に潜む問題を考えているのです。モーセも、サウロも、ダビデも、ペトロも、イスカリオテのユダもそうです。イスラエル人が特別優れていたから選ばれたとは、聖書のどこにも書かれていません。むしろ、全ての人間が祝福に入れられるために選ばれた存在であるに過ぎないと告げています(創世記12:3)。イスラエル人は、神様の恵みを受ける「私たち全ての者の代表」でもあるのです。それが聖書的なイスラエル理解です。

③イスラエル史は私たちの歴史。私たち自身の罪の歴史。しかし、同時に、そんな私たちを決して見捨てられない神様の存在を知る歴史！

パウロは、長々と、自分たちイスラエルの歴史を語ります。神様からの救い主イエスを殺すに至るまでの「人間の罪の歴史」です。しかしパウロはそこに留まらず、神様がその殺された主イエスを復活させられ、人間の罪と死を神様ご自身が打ち破って下さったことまで語るのです。主イエスを私たちが殺したにもかかわらず(主イエスを殺した人たちは私たちの代表!)、私たちを滅ぼされず、「私を信じて生きなさい。そうするなら、私はあなたと共にある」と語りかけて下さった「神様の救いの歴史」をパウロは告げたいのです！キリスト教の説教がただ慰められる話、励まされる話を語るのではなく、聖書のイスラエルの歴史を巡って語る理由がここに 있습니다。他では聞けない恵みの話だからです！